

メディア授業下における「学生のオンライン自己学習」

学生支援ポータルEYeL!の構築過程を例に「どのように支援するか」を共に考える

参加者アンケート

当日参加者数：169名

アンケート提出数：91件

千葉大学アカデミック・リンク・センターは、教育関係共同利用拠点として、「教育・学修支援専門職」の養成のために必要な研修プログラムの構築・運営の準備に取り組んでいきます。今後の活動のために、本日のオンラインセミナーに参加されたご意見・ご感想をお寄せください。なお、記載いただいたご意見・ご感想は、個人名・組織名が特定できないかたちで公開する場合があります。

1. 本日のセミナーで、よくわかったこと、新しい発見などがあればお書きください。

- ・リモート授業における新たな環境の中で、既に学生は適応をはじめ、価値を見つけていること。
- ・急用ができてしまい、ご講演が終わったところで退室させていただきました。みなさまのご意見がきけずにご迷惑です。学生にとってはEyeLのようなものがあれば便利だと思いました。よくわかっていないので変なこと書いてしまうかもしれませんが、利用した学生同士が意見交換ができるようなところがあったら面白いなと思いました。学びは交流や出会いからはじまるかとおもいましたので。
- ・言われてみれば当たり前ですが、ニーズ調査は大事だと思いました。
- ・学生の関心や動向をについて参考になった
- ・オンライン学習支援の事例をありがとうございます。本学ではまだ学生に対する支援が十分ではないので、支援サイトの立ち上げなど、参考にさせていただければ幸いです。
- ・どのような支援が必要かについて、学生に直接尋ねるという視点をいただきました。勉強になり、ありがとうございました。
- ・学習支援の必要性・重要性
- ・千葉大学の取り組みの中で、徹底した学生目線を意識して作成されていることが非常に興味深かったです。特にこの取り組みの思想・背景について聞くことができたのが面白かったです。
- ・「EYeL!」の開発経過が詳細にわかり、短期間ででの立ち上げの経緯がよくわかりました。
- ・大学側のミッションと学生側の状況をすり合わせることの重要性
- ・問題解決するための視点と解決方法について、具体的に教えていただきました。ありがとうございました。
- ・オンライン学習支援コンテンツにおける教学マネジメントのすばらしい事例と思いました。PDCAだけでなく、OODA的なお取組だったと思いますが、OODA的な取組を可能とする条件についても知ることができました。
- ・図書館員の目線ではなく、学生の目線でことば選びをすること。意識していなかったので意識していきたいです。また、Webサイトを作る際にパソコン画面だけを見がちですが、おっしゃっていたようにスマートフォンでも確認し、レスポンシビリティ対応のページを作ることが今の時代は大切だと思いました。
- ・少人数・短期間で構築されたサービスと知り、大変驚きました。スマートフォン対応で配慮すべき点など具体的な事例を多く紹介いただいたので参考になりました。
- ・オンラインで学習支援を行う上での注意点や意識すべき点
- ・PDFよりhtmlというのが新たな発見でした。
- ・オンライン上では言語化・文章化が重要であることは「なるほど」と納得できました。今後の参考にしていきたいです。
- ・大変初歩的なことなのですが、PDFは利用者にとって使いづらいということ、存じませんでした。何から始めたらいいのかわかりませんでした。何となく見えてきたような気がします。ありがとうございました。”

- ・図書館員が関わって構築したのですね。よくわかりました。
- ・学生の実際の学び方、オンライン学習への取組環境を知ることができてよかった。
- ・サイト作成時の文言について「学生目線」ということは、目から鱗のことでした。

業務でサイト作成を担当しており、今後の改善に役立てたいと思います。

- ・普段、直接メディア授業に携わっていないため、学習支援の難しさがよくわかりました。また、専門とする分野や学習環境によって、学生のニーズが異なることも理解できました。
- ・学生の立場に立ち、学生の目で本当に伝わる方法を模索するということにつけるな、と思いました。コロナ禍でできることを精いっぱいしてきたつもりでしたが、やはりどこかで「図書館目線」になっていたと反省しました。「回答期限」は当館も使っておりました。
- ・EYe!の構築、素晴らしいです。参考にさせていただきながら、本学でも何らかのツールを構築することができたらと思っています。学生支援に関わる教員として非常に参考になり、また励まされる思いもいたしました。ありがとうございました。
- ・図書館がオンライン授業支援に深く関わっているということで、図書館の大学教育への関わりの広がりを意識させる大変触発的なセミナーでした。セミナーの企画ありがとうございました。
- ・見落とされがちなオンライン下での学習支援の重要性とその種類を理解した。
- ・学内のコンテンツだけでなく、他大学のものであっても良いものは紹介するという発想は、私自身も参考にしたいと思います。学内での他部局との協力というお話もありましたが、助けを求められる場所に声をかけるということ、声をかけやすい関係を作っておくということが大切だと感じました。
- ・学生の自己学習の手法の構築について勉強になった。
- ・本学でも迷いながらオンラインでの支援を行っていますが、本日のセミナーを通じ目指している方向性に間違いがないと思えました。
- ・図書館は、総合大学の強みであり、学習支援の相談にもっとのってもらおうと思った。(図書委員になったことで知ることも多く、これをいかに他の先生方とも共有するのが目下の課題です。本セミナーとはずれるかもしれませんが。) 亥鼻分館は専門職が2名というのはあまりに少なく驚きました。キャンパス間格差のないように、亥鼻も強化してください。
- ・アカデミック・リンク・センターが、いかにして、学生目線、ユーザー目線の学びのサポートをおこなっているのか、よくわかりました。
- ・遠隔での学修支援について、自身が向かおうとしていた方向性が間違っていなかったと背中を押していただいた気がします。また、その方向に向かって、具体的に何をしなければならぬか、ということが明確になりました。
- ・新しい取り組みを行ったことの評価をすることの重要性。つい、やりっぱなしになってしまうので、次の取り組みのためにも
- ・必要としている学生の目線でサービスを考えること、できることではなく必要とされていることからとりかかること、すでに利用可能なリソースを活用することや他人・他機関との助け合いが迅速なサービス提供に資することを学びました。
- ・オンラインでの授業外学修支援について概要が理解できた。特にエールの構成と使い方の具体例を理解できたのは良かった。これまで各授業で、Moodle上にエールのリンクを貼って学生に示してきたが、今後は深いところのリンク(「文献を引用する」)も貼って学生に示したいと思う。
- ・新型コロナウイルス感染症の拡大で、授業対応で精一杯の大学が多かったと思われる中、授業とは別の自己学習のサポートという、なかなか目の行き届きにくいところの支援を進められた取り組みを知ることができ、刺激を受けました。

・オンライン化で、どのように学生をサポートすればいいのか、その具体的な方法と共に、対面の教育体制に戻った後にも有効な取り組みのヒントを学ぶことができました。

・図書館職員としては、図書の調べ方・雑誌の調べ方といった支援を行うのが基本であると考えがちですが、学生からすると、どういう時に何を調べれば良いのかを知りたがっているということに大変驚きました。確かに媒体の違いや特徴をきちんと理解できている学生は多くないと思うので、そういったところからきちんと分かってもらえるようにしていきたいと思います。

・学生の行動目線で項目を立てるという視点はまったく持ち合わせておらず、新しい発見でした。

・ホームページはパソコン利用だけではなく、スマートフォンでの利用も考慮してサイト構成を練る必要があることは、改めて気づかされたことだった。

・相手の目線にたった情報の提示の仕方

・他の部署の仕事を断らずに引き受ける、といのは本当に大事だと改めて実感しました。「待ち時間」と「回答期限」を使い分けるなど、利用者の目線に立ったサービスを企画していきたいと思います。

・各部署が連携して取り組める組織の構築の強さ、ALSと附属図書館の学習支援のコンセプトのすごさが、こんな状況下だからこそ、さらに大きな学生への支援として還元できるのだとあらためて感じました。本日のセミナーでのキーワード（他部署との連携、チームワーク、走りながら考える（これはうちの組織も同じ傾向にあります））、評価を視野に入れる、ボタンを画像にするなど）を自身の大学の学習支援にどのような形で取り入れられるか模索したいです。また、より中・長期的な視野を含めた学習支援を考えていきたいです。

・看護の単科大学の1人職員の図書館員です。

コロナ禍の始まりのころ、短期間でここまでのWebサービスを立ち上げられたことに感服しております。

人でも脳みそも足りませんが、今後はWebコンテンツにも重点を置いていく必要性をひしひしと感じました。

・本日はありがとうございました。

学生支援の立ち位置理解と、そこから実際に支援の場を作るまでのプロセスをお伺いし、更には今後の改善の方向性までお示し頂きましたこと、大変勉強になりました。

「今の私たちに何ができるか」ではなく「彼ら（学生）が今必要としていることは何か？」「彼ら（学生）が将来に向けて身につけていくべきことは何か？」という観点から議論されたという点が強く印象に残りました。そうありたいと願えど、いざその場面になると、なかなかできないことで、素晴らしいなと思いました。

・学生へのアンケートの回答分析が興味深かった。先生方も含め人材の豊富さもさることながら、以前からの積み重ねが新しい取り組みを始める素地になったと感じた。

・学生の目線、学生が困っていることに目を向けるということに改めて気づかされました。図書館の独りよがりにならないように立ち止まって考える機会を得ました。

・学生の学習環境（物理）を把握しておく、知っておくということには意味があるなど改めて思いました。オンライン学習をする際の画面構成（ビデオ画面をどこに置き、チャットをどこに置き、共有された画面や授業資料をどうやって見るか、みたいな）の話は、私の周りでは割と話題になるのですが、学習環境の身体性とか、学習が埋め込まれている状況と云えばいいでしょうか、そこにも関心を向けるべきだと思いました。ありがとうございました。

・どんな相手か、どんな状況か等あらゆるケースを事前に想定しておく必要があるとうお話を聞いて、改めて、その大切さを認識しました。また、学生にとって必要な情報を見出しにするという点等参考になりましたし、PDFは可能な限り削除という点も今後への参考になりました。

・いつもの仕事の姿勢が緊急時にこそあらわになるということがよくわかりました。

・誰と支援するか（日頃助け合っている他部署や人）は本当に大切に、よい関係だからこそ、トップダウンの指示もよく機能するのだと思いました。また自分たちの使命、役割をよく把握し、そこに立って活動されているからこそ、自らの改善や他部署との協力も自主的にまた積極的に行われているのだと思い、とても

励まされました。”

・短期間でのポータルサイトの構築過程がよくわかりました。学習支援だけでなく、Web サイト構築のヒントにもなりました。従来からの対面での取り組みや人脈がベースになっていること、附属図書館（事務職と学修支援部門（教員）が一体になっていることも重要だと思いました。

・このような zoom 式のセミナーに初参加できたこと。

・やっぱり、教員主導の方がうまくいくのかなと思いました。

・構築過程がわかり勉強になった。

・学生は基本的にスマホからウェブを閲覧することを前提に、サイト（のデザイン）を設計すべきだという知見は、新しく、激しく同意しました。

・キャンパス入構制限やオンライン授業の中、

図書館として、どのように動いたらいいのかの具体例を示していただき、とても参考になりました。

・図書館ウェブサイトの「関心を深める・さらに学ぶ」で、他大学のサイトにリンクしていることに驚きました。

・オンライン授業で課題提出が多い中、レポートの書き方や引用の仕方が求められている。

・自宅でも研究は十分できる。足りない部分は・・・など具体例が分かりやすく、よかったです。”

・とにかく、目の前の学生のニーズを把握することが第一であり、それを実現させるためには他部局との連携が欠かせないということ。わかっているつもりでも、実現できていないので、耳が痛かった。

・ウェブサイトを構築して終わりにするのではなく、実際に利用した学生の意見を聞いて改善を続けている点が素晴らしいと思いました。

・主体的に動ける学生をオンラインでサポートすることは実現可能であると感じました。

一方、どちらかというモチベーションが低い学生の主体性をあげるにはどうしたらよいか考えさせられました。

・短期間でのサービス立ち上げでありながら、短いスパンで利用者の評価を元に修正をかけていく姿勢に感銘を受けました。

・実際に使う側である学生の視点や意見に基づいて、サイトの項目立てや言葉の選び方をすることが大事だということがわかりました。

・貴学の学習支援ポータルを拝見し、非常に見やすく親しみやすいと感じました。

対面が困難な場合に、つい動画コンテンツにしてしまいがちですが、HTML のほうが有効であることがわかり、大変参考になりました。

・学生へのアンケート結果が非常に参考になりました。想像していたより学生はオンライン学習環境に適応していることがわかりました。また、ニーズを明確に言語化することは学生にとって難しいため、学習支援提示から始まるという説明に納得いたしました。

・独りよがりの支援をしない。を、肝に銘じて今後の学習支援を考えたいと思います。

・利用者目線でのサービス提供の重要性。利用者からのフィードバックの有効性。

・文字リンクはダメ、ボタンが良い、というのは新しい気づきで、今後の業務に役立てられそうです。”

・今までの図書館 HP に掲載していた利用案内では、オンライン授業をサポートするには、不十分であり

・最初からオンライン用に作り直すことが適切であることを教えて頂きまして、よく理解できました。

・「学生目線でのシステム構築」、当たり前のこととして肝に銘じなければいけないことだけれど、いざ自分で取り組む場合、どのような点に注目すればよいのかなど、具体的な事例を示していただき、大変勉強になりました。

・本日は急な校務のため、参加できませんでしたが、プログラムの様子から千葉大学でのオンライン教育の支援の充実がよくわかりました。

・オンライン対応について、コロナ対応のみには終わらせず、「つくりぱなし」、「やりっぱなし」にすることなく、学修支援していきたいと思いました。

・同時双方向型の授業を希望する学生が60パーセントしかいないことに驚く。また、家庭で学生本人と家族が日中は回線を分け合って使用せねばならず、学生に授業時間帯と家族の仕事や他の兄弟姉妹の授業とのぶつかりがあり、同時双方向型授業は難しいというのは発見でした。

・オンライン学修支援の評価方法や学生さんの意見についてよくわかり、ぜひ取り入れたいと思いました。

・ウェブデザインが大事ということを再認識しました。

・「現状の枠組で出来ることはすべてやる」というところは、本学でも何とかしましたが、既存のコンテンツを並べただけに終わり、「学生のニーズ」や「ニーズを満たすためには組織の枠を超える」というところまでは、行きつけていないというのが現状です。さすが千葉大学だなあとあらためて思いました。

・支援の基本的姿勢として提示することというのを挙げていらしたのを伺い、なるほどと思いました。

・オンライン授業の中での学生支援について色々とヒントをいただきました。

・スマホ画面ならではの使いづらさへの配慮

・利用する学生目線での情報発信、文言表現、スマホユーザー視点など、新たな発見や再認識をすることができました。

・学習支援に関する他大学の詳しい事例を知ることができて大変参考になりました。学生の目線になって改善を行っていくことは難しいと感じていたのですが、それに対する様々な工夫を知ることができてよかったです。

・2週間で構築したということに驚きました。権限を与えられ、よく知った少人数のメンバーで動いたからこその成果だと感じます。緊急時に迅速な対応をとるための体制として参考になりました。

メディア授業下における学生の授業受講スタイルの調査として、受講している際のデスクの写真というのは学生の様子がよく伝わってきました。

・教育・学修支援に対する熱意・情熱と行動力の重要性、必要性を再認識しました。担当者をはじめ関係者のご努力は当然として、個の取り組みを組織や学外へも拡大していける貴学の風土、文化は羨ましいです。

・文字リンクやPDFファイルの使い方について、学生の声を聞きながらやっても聞いたことがない発想だったため、目から鱗だった。

・他大学の取組み例を色々参考にはしましたが、具体的に導入までの経緯や学生の意見等を知ることが出来、改めて参考になりました。サイトの使い勝手について(PDFはNG!)などは、利用者の環境や使用頻度にもよるものだと思いますので、本学でも個別のインタビュー調査など実施していきたいと思いました。

・私の勤務先では、図書館・学習支援室・授業準備室・SD委員会(教授会)など、学生支援・授業支援担当者が分かれているので、教員と職員が協働して学生支援にあたっている千葉大学様の事例を拝見できて大変参考になりました。また「単独での学英支援は限度があるが、図書館は一部局で仕事が完結しやすい部署なので、日ごろからお互い助け合うことをこころがけておく必要がある」というご指摘は、勤務部署内でも共有したいと思います。

・早い時期での準備はすごいと思いました。

・その都度学生などにヒアリングをして、随時システムを修正していくのに驚きました。

・他部署との連携は重要ということは本当に納得できることだった。(うちの大学ではなかなかうまくいかないの)

・学生の潜在的なニーズをいかに吸い上げるかが重要で、またそのニーズも(今回はコロナ禍であることも大きいですが)変化していくため、図書館員だから可能なこと、他部署や教員の協力が必要なことについて、定期的に検討し準備すべきだと改めて感じました。

2. 本日のセミナーで、よくわからなかったこと、疑問に残ったことがあればお書きください。

- ・EYel! 自体をどのように広報して使っていただくようになったのか
- ・お教えていただいたことをまだ消化しきれておりませんので、勉強を進めたいと思います。ありがとうございます。
- ・実験、実習の学習支援（授業内の支援はスマートオフィスさんとのことですが）の在り方についても、また情報発信いただければと思います。（貴学の看護学部でのお取組を知りたいです）
- ・ページ作成は、自分たちで行ったのか。
- ・疑問はないのですが、動画も Moodle に入らずに見ることができるよう設定してほしい。
- ・図書館の授業支援ポータルについて、学生の声を反映するのは当然のことですが、教員からはどのような反応があるのでしょうか。
- ・千葉大学外の人にとっては、千葉大学のオンライン授業の全容がわからないため、この支援の学生に対する度合いがわかりにくいのではという点は気になりました。あと、Teams を通じた相談者の実人数はどれくらいだったのか知りたかったです。これまでと同様に、一部の相談したがり学生だけがアクセスしていたのだったら、方法は変われど、実情は変わらないことになるので、如何に躊躇なくアクセスさせるかという工夫が別に必要になります。
- ・固定回線のある学生が6割というのは、少なめだと感じました。また、今後オンラインの学習時間が長くなることを考えると、スマホの小さい画面を見続けることは負担になるので、PCが1人1台必要になってくると思います。これらの環境の整備を支援できるかどうか、問題になってくるのではないかと感じました。
- ・この取り組みの学生の満足度はどのくらい？
- ・学習障害等を抱える学生さんに対してのオンライン下における支援事例がありましたら、ご教示ください。
- ・疑問はありません。
- ・著作権法の改訂について。授業でつかう著作物の公衆送信が許諾なしにできるようになりましたが、行為の主体は決まっているのでしょうか。図書館員が教員に代わってデジタル化をすることも可能なのでしょうか。
- ・学生の方からのフィードバックをどのように集約したのか知りたかったです。
- ・授業外学習（＝自己学習）でのオンライン支援については概ね理解できたが、授業内学習でのオンライン支援については、個人的に模索しているところなので、具体的な事例や他の方々の工夫を知りたくなった。
- ・せっくなので授業自体の取り組みについても伺い、授業、授業時間外の授業にかかる学習、カリキュラム外の追加的な自己学習、と全体像として知れたら良かったと思います。
- ・日常業務の中で、今回の作業も行っていっちゃったとのことですが、どのくらいの時間をかけたのか気になりました。
- ・上述のことと関連しますが、「文献を探すときは…」ではなく、「内容的にどんなものを調べたいときは論文を探す？」という項目を立てたほうがよいといったようなお話があったかと思いますが、その具体例を示していただければよかったです。分野によるのかもしれませんが、こんな時は論文で、こんな時は本を、といったような区別をするようなことがあるのか、私の専門分野においてはあまり心当たりがないためです。
- ・疑問ではないのですが、今後の動向が気になります。また続報のようなものを Web セミナーでしていただけることを希望します。
- ・本学では外部クラウドサービスの利用が厳しく制限されており、フォームの利用がままならない。大学の方針とこちらの希望にズレがある場合に、打開する方法に悩んでいる。
- ・コロナ後は、オンラインと対面の併用になるのでしょうか？その場合、どちらを優先することになるのでしょうか？
- ・実際に自分で担当する場合に、どんな問題が生じるかについては、想像し切れない。
- ・個々の遠隔授業との連携がどのようになっているのかがわからなかった。

・教員やチューター・TA と利用学生とのオンライン・コミュニケーションを、どう円滑にすすめていくか、具体的な事例をふまえてご紹介くだされば有り難いです。

・質疑応答で、発言者（マイク？）によって、音量に差があり、少し聞き取りにくい箇所があり、よく分かりませんでした。

受講者側の問題で、途中で接続が切れることが何度かあったので、その箇所？との関連部分だと特にわかりませんでした。

・国際未来教育基幹スマートオフィス=メディア授業支援ポータルとの住み分け方法の具体例について、お話をきければと思いました。

・学生向けの学習支援としてこのようなサイトを作成されたということですが、教員に向けた教育支援サイトも同様のものがあるか、もしくは作成予定か知りたかったです。

・質疑以降を拝聴できませんでした。すでにてている質問でしたらご容赦ください。学生への周知をどのようにされたのでしょうか。また、走りながら作りましたとのことですが、情報を更新したことの周知方法についても、どのようにされたのでしょうか。

・事前に千葉大学図書館さんの利用者への学習・研究支援の案内を調べて置きませんでしたので、以前の内容がどのように変わったのか、または学生がアクセスできるシステムでのみ、学習支援が強化されているのかを、学びたいと存じます。

・英文支援における AI 活用と英語母語話者の協力、大学院生によるサポート、オンライン学習における学生への課題の適量、語学学習の図書館のリモート利用のリソース充実については、常々考えるところです。

・人的リソースが十分でない場合に、どこまでできるか、どのように支援を外部に頼めるのか、そこいらへんの情報をもう少し詳しく知りたいと思いました。

・書籍の電子化についてもっと知りたいと思いました。

・分野別学習相談については、オンラインチャットを通じて「それぞれの分野の時間内に相談してください。事前の相談申込はできません」となっているようですが、オンラインチャットに限定する（リアルタイムでない相談を受け付けない？）のには理由があるのでしょうか？図書館員のレファレンスはメールベースのようですが。

・以前、貴学N棟のコモンズスペースのデスクの運用を拝見して、学生さんが積極的に学習相談にきている様子に感心いたしました。今後感染症拡大が落ち着いてきた際に、学習相談のデスクとオンラインは平行でいくのでしょうか、もしくは切り分けていくのでしょうか。

・今後の対面サービスの在り方について、本学でも見直しが必須と考えていますが、現時点で今後の方向性についてのお考えがございましたら、御意見を頂ければ幸いです。

・学生の活用の実態、支援の効果、学生が不満に思っていること

・最後の質疑応答の中で、竹内センター長が回答された中で、オンラインによる授業実施の中、授業目的公衆送信の施行による対応として、千葉大学（おそらく図書館）では教員の依頼にもとづき、電子化した資料提供の実績が32件と紹介されました。

これは、教員等の指示を受けて、事務職員等が資料の複製・公衆送信が可能であることから、対応がなされたものと解釈しております。授業目的公衆送信の施行に伴い、授業目的に限られますが、図書館が授業担当教員への新たなサービスが展開可能であると考えております。

・サービスの実施にあたって、どのように授業目的であると判断し処理をするかなど、機会がありましたらご教示いただければと思います。

・ポータルサイトあるいは学習相談等の学習支援について、学生に向けてどのように広報を行っているのかをさらに詳しくお聞きしたかったです。

・できる支援ではなくするべき支援をやる、この点においてとても共感した。一方ですべき支援を考え、その中のできる支援から着手するという風に捉えたのだが、この受け取りで良いのか疑問が残った。

・学生へのヒアリング方法を聞いたかった。システム構築をこれから先するにあたって、人員を増やす計画はあるのか。

3. 大学における教育・学修支援の在り方についてのお考え、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力、また、教育・学修支援のご所属先での取組事例やご存知の特徴ある事例などがあればお書きください。

- ・ 今後は、オンライン授業を有効に活用できるスキルが必要になります。教職員も力量が問われる時代ですね。
- ・ まだ事例はありませんので、今回勉強させていただいたことを含めて計画したいと思います。ありがとうございました。
- ・ 教育機関所属ではないため、情報提供できず申し訳ございません。

ただ、教職協働で取り組むことは必須と考えます。

・ 支援ツールを構築でき、学生とのやり取りでバックグラウンドに専門家が控えているとは、羨ましい限りです。学生の辛いところに手が届くような指導やサポートができるようにしたいと思います。

- ・ 看護学部で勤務しています。

中止していた実習を再開するにあたり、後期科目もオンライン（デマンド型）で提供する予定です。

昼間は実習、土日にオンラインで卒業要件単位を稼ぐという、学生のダブルワークみtainな対応ができるのもオンライン授業の利点かと思えます。

・ 図書館は孤立しがちな部署と思いますが、教員に限らず、他部署職員との連携など、人と人をつなぐ能力は必要だと常に感じています。また、学生は常に新しい考えをもたらしてくれますので、柔軟であること、も大切な能力だと思います。取り組みとして、当館ではリモートワークにて図書館 RPG を作成いたしましたので、よろしければご覧いただければ幸いです。<https://libopac.josai.ac.jp/rpg/rpglogin.html>

・ 國本先生がおっしゃられていた、一つの部局だけではなしえないというお話、本当にその通りだと思います。このようなツールは使ってもらって価値のあるものなので、学生はもちろん、教員が授業の中でなど、どのようにすれば多様な使われ方が可能かという視点から、垣根を越えて多くの人と協力して作成するのが良いのだろうと改めて確信いたしました。

- ・ 今回ご紹介いただいたように複数部署の連携、教職協働、FDなどが必要と理解いたしました。

・ 学生の声を聴いてこそ、良い学習支援ができると思います。貴学では、学生が積極的に調査へ回答していることが印象的でした。学生の協力を得るための工夫が求められると感じました。

- ・ いろいろな取り組み事例が参考になります。

・ 現在、教員として、学生の教育支援をおこなう立場ですが、どのような環境下にあっても、学びの機会を閉ざすようなことがあってはならず、状況に応じた学びの場と方法を開拓していく使命があると思います。その意味では、オンラインによって、場所と時間を選ばずに、多様な学びにアクセスできることは良いと感じます。

・ 今回、コロナ渦で特に新生はまだ一度も登校していない状況で、いろいろな不安や悩みを抱えていると思います。そんな学生たちの不安を少しでも取り除けるよう、学生の目線になって支援をしていくことが大切であると再認識することができました。まずはそういった相談窓口があること、そしてやりっぱなしにせず、学生の声を聞いてブラッシュアップしていくことがより良い学修支援の在り方だと考えさせられました。

・ 対面で行っていた先輩学生による学修相談を、テレビ会議に変更して実施し始めましたが、相談件数がのびず、対象者へのニーズに沿った案内が足りていないのだと痛感しています。

・ 教育・学習支援のための、時間と心の余裕がほしい。各種の締切に追われる中でも、このようなセミナーを受講する時間を確保し、研鑽をつむことが大切なのだと思う。

・ 本学では、各場所の ICT に詳しいスタッフが自主的に集まり教員のメディア授業やオンライン授業の支援をしてくれています。その支援内容は多岐に渡っており大変助かっています。コロナの件がなければ、スタッフのスキルを知ることはなかったと思うと、そういうスタッフがいてくれたことに感謝すると共に、同僚の先生方やスタッフの専門性とは別のスキルを知っておくと緊急時に迅速に対応できるのだろうと考えています。

・ 本学では図書館が1つの授業を持ち、資料の調べ方やレポートの書き方を伝えています。その中でいかに理解してもらえるかを第一に（言葉遣いや言い回しなど）、考えていかなければならないと思っています。

・ 身近な例をとって考えれば、本日お話にあったような部署、部門を超えた教員、職員の連携がまず必要かと思いました。図書館の方が教えたい図書館の使い方と、実際の授業で必要な図書館の使い方、文献検索の方法などが一致せず、それぞれがそれぞれに実施しているようなところがあるため。

・ 教員間の横のつながり（YEel を使う同じ立場の人たちの情報交換の機会）があれば、より使いやすくなるようにおもいます。

・ レポートの書き方など、どの学部でも共通して教えなければならないことについて、学習支援を行うことは重要だと思います。

九州大学では、大学院生の図書館TAと協同した学習支援として、レポートの書き方講座、プレゼン講座などの講習会、学習相談デスクでの質問受付を行っています。

- ・オンライン授業の実施を体験してみて、まずは教職員に対するサポート（Zoom 使用法など）が必要だと感じた。組織としてソフト・ハード両方の環境をサポートする体制が必要だと思う。教員側も、授業構成についてしっかり考えることが、オンライン授業では求められる。

- ・今後、図書館職員は語学力や IT に関する能力が欠かせないものになると思います。図書館だけではその教育は難しいので、大学全体で人材・職員育成を考えていくべきではないかと考えます。

- ・本学はインターネットを使って授業を行っている大学ですが、各授業科目にはいつでも質問や疑問等を投稿できる掲示板があり、教員・TA は原則 24 時間以内に回答するという体制を取っています。教員・TA と双方向でやり取りでき、早く回答がくる点では、わからないことを早い段階で解決でき、教員・TA を身近に感じている学生も多いです。

- ・図書館では、各授業科目のお知らせで、それぞれの教員の電子書籍を中心とした推薦図書を紹介し、授業での時間外学修に活用してもらっています。学生アンケートでは、このお知らせを見て教員の推薦図書を活用しているという声が多くありました。”

- ・次々と新しい事態が出てくるので、新しい方法へのチャレンジ精神や柔軟性のようなものが重要だと思います。

- ・本日のセミナー以上のことは、存じ上げません。

- ・どの大学も、とにかく教職員ともにスタッフを増員し、かつ安定した雇用を提供して欲しいと考えています。

- ・初めてであり、急なオンライン授業。テレワークや分散出勤。

誰もが、余裕が無く、先生方や他部署に協力を依頼しての学習支援は、トップからの要請が無いと難しいと思いました。しかし、他大学の事例はとてもしんどいになりました。ありがとうございました。

- ・利用者（学生・教員問わず）のニーズを如何に把握し、サービスに反映させるかが重要なのだと、改めて認識しました。また、オンライン授業下で不足しがちな「雑談」に相当する部分を、図書館においてどのような方法で提供できるか、考えていきたいと思いました。※本学では参加人数こそ少ないもののオンライン読書会が好評です。

- ・大学は小中高の教育に比べて自由度が高く学生の自主性が求められると思いますが、このような教育環境を活かし自らの興味を深めるための技術を学ぶ場は意外にも多くないかもしれないと感じました。EYe! のような学修支援ポータルは有効であると思いました。

- ・まずは、教員に信頼されること。と思っております。

- ・事例紹介ではなく、知りたい事例を書きます。> 今後、大学図書館における冊子資料の取り扱いが、微妙だと思いましたが、東京大学総合図書館で、工学部の石川先生と共同で 300 万冊を電子化すると 2014 年にスタートした計画は、どのようなく形で動いているのでしょうか？その効果も知りたいです。

- ・今回の COVID-19 対策によるリモート教育・学修支援により、従来の教育の改善策が見えてきたように思われます。対面でこそできることと、リモートでもかまわないことの整理がつけばよいと思われれます。

- ・やはり、一歩踏み出して、自分からこのような支援システムを構築したい、と言い出す勇気が必要だと感じました。

- ・Web や SNS 等、現在の学生に合った方法や技術で支援できるような能力、人脈が必要だと感じます。

- ・私は大学の図書館員ですが、教育・学修支援のために必要と思う資質・能力は、何かの学問分野で論文を書いたことがあるかどうかかなのではと思うようになってきました。あるいは、それが無理な場合は、論文やレポートの“型”がわかるかどうか。何の資料で（政府統計）どういうことを（親の所得がその子の所得に関連するか）

どう証明・説明するか、みたいなことです。と同時に、どのような資料を求めるのが自分にふさわしいのか（おそらく）学部生さんがご自身で判断していくのは難しいと思うので、先述のようなレポートの“型”を教える講習会があったらおもしろいなと思います。実際のレポートベースで、ここがいいとか、ここはこうしたほうがいいのか、この資料の使い方が良いとかを読んでいくみたいなことです。レポートはこういう風を書く、というコンテンツだけでなく、レポートの読み方を学んで、レポートを書こうよ、という、逆向き？コンテンツが見たいです。私は社会学専攻だったので、文学研究の際に参考にする資料を説明されたら…文学だけでなく複数の分野で用意されていたら…などと妄想すると興奮してきました。とはいえ、どういう資料を使って何をどう説明するか、こそが勉強の成果だし、論理的に書く力でもあると思いますので、あくまで（例）ということで、正解に向かっていこうよという話ではありませんが…。書いているうちにまとまりがなくなり、私の希望を書いてしまい、すみません。

- ・大学における教育・学修支援の在り方がどれぐらい変わっていくのかはわかりませんが、方法論は大きく変わってくるのだらうと感じています。そして、顔が見えない分だけ、ピアツーピアのサポート、というよりフォローアップがより必要になってくるように感じています。こぼれ落ちて、こぼれ落ちたことが見えにくいように感じています。逆にできる学生はどんどん先に進みやすくなるのかも、とも感じています。
 - ・大学院生のスタッフによる学生への学習支援を行っています。(現在はオンライン)
 - ・最近の事例では、遠隔授業サポートチームを組織して、学生・教員の遠隔授業サポートを実践してきた。教育を受ける側、提供する側、双方の支援をすることが重要で、その枠組みで既存組織と連携した学習支援も展開中である。またFDなども積極的に開催し、日常的なカイゼンに力を入れている。
 - ・若手職員と決定権のある上層部との間での認識の差、WEBやSNSに関する知識のギャップなどが大きく、話が進まないことが多くあります。たとえば、直属の上司は未だガラケー使用者で(在宅中でも業務用携帯の支給などはありません)、学生のスマホ中心の生活様式は想像もつかないところがあるようです。そうした者が、対面でない場面で学生のニーズを把握し、適切にサポートするというのは相当難しいです。
 - ・大学では「教務課」だけではなく、大学全体の部署が協力して学修支援をする必要があると考えている。
 - ・学修支援デスクを設けて、学部3・4年生が学習全般の相談対応をしている。
 - ・現在、この状況なので対面ではなくオンライン上で顔が見られる状況で対応をしている。
 - ・特に今年の1年生はガイダンスから中止の連続で、「時間割の組み方」や「授業の受け方」、「レポートの書き方」など分からないことだらけだと思う。ただ、オンラインもハードルが高いのか申込件数は思ったより少ない。
 - ・並行してSNS(Twitter)で匿名で質問ができるものに関しては、投稿しやすいのか多く質問が寄せられている。
 - ・その時代のニーズに合ったものを利用しながら学習支援をしていく必要が今後も必要と考える。
- また、こちらが行っているものをいかに広報して知ってもらうかがキーポイントでもある。

4. オンラインセミナーを受けてみて、不便に感じたこと、改善してほしいことがありましたら自由に記入してください。

- ・不便に感じたことはありません。これからさらに改良して下さい。
 - ・HPの画面なども閲覧しながら受講ができ、理解が進んだ。
 - ・気軽に受講できましたのでオンラインセミナーがありましたらまた参加させていただければと思います。ありがとうございました。
 - ・質疑のときに、質問文だけでもよいので画面投影いただければと思いました。
 - ・特にありませんでした。問題なく受講できました。ありがとうございました。
 - ・とくにありません。が、事前にPDFで資料を配布いただくと、メモができてうれしいです。
 - ・不便は全くありませんでした。あえて改善点をあげると、14:30開始以前の待機時間に、音楽などが流れていると音声不通でないかと確認でき、より円滑に進むのではないかと思います。本日は有難うございました。
 - ・説明資料はスクリーンに投影したものでなく、直接閲覧できるとよりよいと思いました。
 - ・スライドについて、PDF等を画面共有していただいたほうが見やすいと感じました。また、話す方によって音量がどうしても異なるので、少し聞き取りづらい点がありました。女性の声の方が聞き取りやすいように感じました。
 - ・問題ありませんでした。
 - ・オンラインでも全く問題ありません。これまでと同様の参加感がありました。今後もこのままでもいいくらいです。
 - ・不便に感じることなく参加できました。
 - ・音量の大小がある。
 - ・ありがとうございました。これからもオンラインセミナーは受講しやすく継続していただきたいです。
 - ・この数カ月、いくつものWebinerやオンライン会議、オンライン授業などに参加しています。
 - ・本日のオンラインセミナーは、大変わかりやすい進行で、また、十分な質問受付の時間が設定されており、運営がすばらしかったと思います。
 - ・ノートPCで参加させていただいたため、EYel!のHPを見たり、チャットの画面を見たりというのがPCの大きさに困りました。
 - ・使用スライドを公開してほしいです。
 - ・本日のオンライン・セミナーに関しては、不便に感じたことは一切ない。今後もオンラインを継続して頂きたい。Zoomには拍手の機能が合ったように記憶しているので、最後にそれを使えばよかった。
 - ・スマホで参加したためではありますが、pptのスライドが小さく見えないこともありました。スライドのデータを共有してもらえるとよかったかと思います。
 - ・開始30分前から接続できるが、音声は流れていないと音声確認ができない。
 - ・BGMが流れていると直前で慌てて確認する必要が無いので、30分前や15分前からBGMを流してもらえると音声確認が確実にでき、スムーズにセミナーには入れると思う。”
 - ・パワーポイントを画面共有するWebセミナーばかり受けておりましたので、会場スライド画面の放送は若干見づらかったです。臨場感はとてもありました。
 - ・現職でオンラインセミナーの開講に向けて、準備検討しているところです。セミナー運営の観点からも大変勉強になりました。
 - ・様々な質問に対して、それぞれの担当者・専門家から回答をいただけたことなどは、リアルセミナーと変わらないライブ感のある対応で、とても良かったです。
- リアルセミナーを配信するスタイルにされたのは何か狙いなどがあってのことでしょうか。また、投影資料を手元に置きながら（書き込みなどしながら）受講出来たら、更にこの時間（セミナー）から得られるインプットが増えたかな、とも思いました。”
- ・明快なお話で、おおむねスムーズに視聴できた。たまに音声が小さくなってしまうことがあった。
 - ・先に簡単なレジュメでよいので、先に目を通しておくことができたなら、お話を聞いてもっと理解が深まったように思いました。
 - ・特にありませんが、今回のような形式であれば、スクリーン共有でよかったのでは？とは思いました。
 - ・不便等、特に感じませんでした。ご準備大変だったことと思います。このような機会をいただきありがとうございました。感謝とお礼を申し上げます。

- ・特に、支障はありませんでした。
- ・14時過ぎのアナウンスで、事務連絡の前に、事務方の雑談みたいなのが聞こえたので、戸惑いました。
- ・オンライン開催で、遠隔地でも参加できたことはとてもよかった。ただ、質疑応答の際に、一部、マイクの使い方の関係(?)で、音声がうまく聞こえないことがあった。
- ・発表者(登壇者)が映らなくてもよいので、提示されるスライドをそのまま画面共有してください。
- ・受講者側の問題で、途中で接続が切れることが何度かあり、話題が少し飛んでいて、ついていけないことがありました。

PP資料を事前(前日など)にダウンロード出来たら、手元で資料を確認できるのになと思いました。

- ・致し方ないこととは思うのですが、発話者によって声量が異なるため、音量調節の必要が生じたことが、少し不便に感じました。
- ・質問の受け方等についてセミナー開始5分前に事務局の方から案内がありました。離席していたため途中からしか聞くことができませんでした。重要な連絡についてはセミナー開始後にもう一度ご案内いただくか、セミナー開始5分前に案内があることについて事前の予告があると良いと思いました。
- ・運営の皆様はご苦労が多かったのだらうと推察いたしますが、受講側からするととても快適でした。
- ・遠方に居住しているため、セミナー参加を希望しても実現しませんでした。オンラインセミナーの実施に感謝申し上げます。
- ・不便に感じたことはありませんでした。ありがとうございます。
- ・スライドの資料等、提供可能な分だけでも構いませんので、アンケート回答者には配布していただけますと幸いです。
- ・意外に60分傾聴することは疲れることです。講師の方の口調が速すぎたこともあります。休憩がありがたかったです。
- ・スライドのPDFを前日に送っていただきたいです(印刷してメモするため)
- ・マイクと口との距離が一定だと聞きやすいと思いました。
- ・特に不満は感じませんでした。音声も画像もクリアでした。
- ・良くも悪くもオンラインセミナーらしくないセミナーだったと思いました。改善してほしい部分としてはスライドが見にくい時があったので、できれば画面共有等のzoomのデフォルト機能を活用していただけたらと思いました。セミナーの臨場感があって、今回のようなやり方もいいなと思いましたが、やはり見にくいのは残念でした。また、質疑に関しても、せつかくテキストを共有できる環境での開催なので、質問文を見せていただくと分かりやすいなと思いました。
- ・画面が暗かったです
- ・(あえて申し上げるならというレベルですが、)音声のボリュームが発言者に応じて大きく違い、発言者が変わるとボリュームの調整が必要になることがありました。
- ・音量調整が難しい。発表者の声の通り方に差があると、うまく調整できない。
- ・初めてのウェビナーでしたが、快適に受講できました。
- ・特にないです。遠方で勤務しており、また障害があり出張が難しいので、今回オンラインで受講できたことは大変ありがたかったです。可能でしたら、表示されておられたスライドのデータを公開して頂けると嬉しいです。
- ・とても充実した内容でしたが、盛り沢山だったのか講師の方が少し早口だった。事前にスライドの資料を欲しかった。

5. 本日のセミナーの内容について等、その他、自由にご意見をお書きください。

- ・所用のため途中退席させていただきますが大変参考になるセミナーでした。ありがとうございました。
- ・参考になりました。國本先生はじめ皆さん、お疲れ様でした。
- ・タイムリーなテーマで、興味を持って参加させていただきました。どうもありがとうございました。
- ・面白そうな内容でした。
- ・特に学修に前向きな学生層への支援について、参考になる部分が多々ございました。ありがとうございました。
- ・最新の情報提供をいただき、エビデンスにもとづいたお話が多数含まれており、大変勉強になりました。またこうしたセミナーを実施いただければ大変ありがたいです。
(また、小職のような企業の人間にも開いていただいたことに、深く感謝申し上げます)
- ・他大学の学習支援の情報を得る機会が少ないので、勉強になりました。本学の取り組みの参考にさせていただきます。
- ・とても勉強になり、有意義で大変楽しい時間でした。講師の方をはじめ、企画をしてくださったすべての方々に御礼申し上げます。
- ・本学は近畿地方に在るため、今回遠方であるはずの講習会に参加することが出来てよかったと思います。オンラインの良さを改めて感じました。
- ・オンラインでの学生支援についてどうすればいいのか悩んでおりました。専用ページや動画作成から始めておりますが、アカリンさまの事例を参考にさせていただいております。ありがとうございます。
- ・当法人でも参考にさせていただきたいと思います。
- ・本日はご準備その他ありがとうございました。
- ・今日の内容は学生向けWebページのことにとどまらず、また、オンライン授業下にとどまらず、今後の図書館や各部署が心にとめておくべきことと思いました。四の五の言わず、目の前の学生の声を聴け！と叱咤激励されている気持ちになりました。大変想いのこもった講演をありがとうございました。
- ・オンラインの企画であったため、途中退席も可能で（申し訳ありません）、ありがたかったです。
- ・準備が大変だったと思いますが、とうもお疲れさまでした。
- ・とても勉強になりました。改めてみなさまに御礼申し上げます。
- ・現在所属する亥鼻キャンパスと、西千葉キャンパス（ほかのキャンパスも含め）が、互いに協力してできることを今後、進めていきたいと感じました。
- ・大変有意義な時間となりました。今後実施したい具体的な支援を行動にうつしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・サイトも拝見しました。短期間で準備されたとのこと、素晴らしいと思いました。
- ・どうもありがとうございました。大変参考になりました。今日教えて頂いた情報は、早速、各授業のMoodle上の設定に活かします。
- ・またこうしたオンラインセミナーがありましたら参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。
- ・これからの教育のあり方を考える上でとても有意義な講演でした。ありがとうございました。
- ・大変有意義で興味深い内容でした。今後の参考にぜひさせていただければと思います。どうもありがとうございました。
- ・惜しみなく情報を開示してくださったことに感謝申し上げます。ありがとうございました。
- ・オンライン授業が常態化してきている中で、どのように利用者への支援を行うことができるのか、利用者は何を求めているのかを支援者目線ではなく利用者目線で考え、提供することが非常に重要だとわかった。利用者目線で考えているつもりでも支援者目線になっていることもあると注意して取り組んでいきたい。
- ・相手の状況を想定して、相手の様子が見えない分、より多くの選択肢を提供したり、具体的な例を挙げたりす

る必要があることがよくわかりました。明日の授業に生かしたいと思います。

また、こちらに書くべきことではないかもしれませんが…今回のセミナーを受けてみて、大学が on-line 授業を開始するまえに、on-line 授業の具体的なやり方についてご担当部署の方から今回のような講習を受けたかったと思いました。

・貴学の事例を詳細に紹介して頂き、参考になる部分がたくさんあったので、何を取り入れることができるのか考えていきたいと思います。今後も是非セミナーに参加したいと思います。ありがとうございました。

・本日はありがとうございました。先生方は無観客でやりにくいとおっしゃっていましたが、熱い思いが伝わってきました。普段はなかなか出張に出られないので、オンラインセミナーだからこそ、参加させていただくことができ、とてもありがたく、また大変おもしろかったです。

・本編ではないのですが、コロナ禍でシラバスの書籍を電子版で収集したら1割程度しかなかったという話が印象的でした。本学も同じような感触だったので、意外とそのようなものですね・・・

・本日はとても良い刺激をいただきました。まだまだもっと図書館として出来ることを探していきたいと思いません。

・参考になる事例がたくさんありました。出張せずとも業務の合間に参加できるため、良かったです。

・非常に興味深いお話でした。他部署との連携を少しずつ行っていますが、もっと話し合いが必要だと感じました。またマンパワーが足りないのですが、関係する係に関係なく意欲のある職員にも参加をしてもらえ環境を整えるなど工夫も必要と思いました。

・本日ご紹介いただいた事例や結果などは、貴センターの組織・運営の特性に依拠した支援によるのだろうと感じました。特に人的リソースの厚みやメンバー間の関係性や、普段の意思決定とその実装プロセスがどうなっているかといった部分です。貴センターでの EYel! 構築から支援にいたるまでの実践の中で、そういった個性による部分がどう影響していたのかについて、もう少し整理して考えたいと思いました。

・セミナーの内容の理解度については、音声も聞きやすく、通常の対面でのセミナーと違いがなかったと感じました。質疑応答もスムーズで特に問題点を感じませんでした。

・このような機会を増やせば増やすほど、優れた FD や SD になるのでは。

・次回以降もオンライン開催としていただけるとありがたいです。

・とても勉強になりました。ありがとうございました。遠方なので、オンラインだと参加しやすいです。

・発足からわずか2週間でサイトを公開したということ、しかも中心メンバーはわずか3人と聞いて、とても驚きつつ、それほどのスピード感をもって取り組むべきと教えていただきました。

・COVID-19 の影響下で様々なセミナーが中止される中、在宅勤務でも参加しやすいオンラインセミナーという形で学びの機会を得られたことを有難く思います。ありがとうございました。

・大変に有用な機会となり、感謝しております。オンラインであれば参加しやすくなりますので、今後ともよろしく願いいたします。

・普段は距離の問題から関心があっても参加できませんが、オンラインだと気軽に参加できて大変ありがたいです。学修支援について初心者ですが、とても参考になりました。ありがとうございました。

・スクリーンは鮮明でしたし、先生方の顔もよく見えておりました。途中で映像が止まることもなかったので、セミナーに集中することができました。

・本日はありがとうございました。

・本学では、最近教員から図書館への、授業支援要請が徐々にですが、増えてきました。その支援を考えるためにも、本日のセミナーは大変助けになりました。ありがとうございました。

・メディア授業の感想でも述べられていましたが、オンラインの便利さを実感しています。移動がないため、気軽に参加でき、また、時間も有効に活用できます。

今後もオンラインセミナーまたはリアルとオンラインとのハイブリッドセミナーの開催を期待します。

- ・講演者のエネルギーが伝わり、かつ組織の様子も感じとることができ、とてもよかったです。
- ・オンライン授業は、（たとえコロナが収束しても）今後ますます重要になってくる（スタンダードになってく）と思われるので、それに対する「図書館」としての試み・事例を今後も紹介していただきたい。
- ・今回のセミナーの資料の公開（可能な限りで）と次の開催を楽しみにしております。
- ・エールの画面構成の説明の際に、「学生にとって必要な情報を見出しにする」とありましたが、本学のポータルサイトの連絡においても学生目線の表現になっているかどうか改めて確認したいと感じました。そういった意味で非常に有意義なウェビナーになりました。ありがとうございました。
- ・オンライン授業支援システムを構築する際の、苦勞のしどころが理解できた。プロジェクトリーダーの役目がやはり大事で、今回は適役の人を得た、という印象です。
- ・オンライン授業がしばらく続きそうな状況なので、自分自身にとってタイムリーなテーマでした。役立つ情報をたくさんいただき、ありがとうございました。
- ・楽しかったです。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。千葉大学の取り組みをお聞きし、とても勉強になりました。
- ・対面とオンラインで、コミュニケーションの様式が異なってくるというのは、たしかにそうだと思います。Google Classroomでは教員も学生もアイコンとして苗字でなく名前が表示されてしまいますが、学生も教員もサポートスタッフも、同じように「太郎」「宏子」と名前が表示される状況からスタートした一年生、先生に対する発言もフラットな感じがしました。欧米のようにファーストネームで呼びあうような世界になっていくのかなあと、他のスタッフと話していました。”
- ・大変勉強になりました。ありがとうございました。
- ・オンラインでの実施と様々な面で不安がある中、また大変お忙しい中、通常開催以上の労力をかけ実施いただきましたことに感謝いたします。本学の運営、個人の業務面においても参考となる情報がございました。ありがとうございました。
- ・集中して参加できなかったため、後日アップいただくものを改めて拝見させていただきます。
- ・千葉大学アカデミック・リンク・センターのセミナーはとても関心があるのですが、距離が遠いため、なかなか参加することができません。今後は、今回のように zoom で配信するようになってほしいです。
- ・教育・学修支援に対する担当者としての熱意が感じられました。
- ・大変勉強になりました。欲を言えば、質疑応答よりもディスカッションをしたかったと感じました。とても勉強になる内容でした。ありがとうございました。

5. 次の（１）、（２）について、該当するものに○をつけてください。

- (1) a. 千葉大学外の方 74名 b. 千葉大学内の方 17名
- (2) a. 学生 0名 b. 教員 23名 c. 大学職員(図書館職員を除く)15名 d. 図書館職員 47名
- e. 出版関係 1名 f. その他 5名

* 33名が新規に継続的な情報提供を希望